Windows Server 2003のセットアップ 3

Windows Server 2003オペレーティングシステムのセットアップをする手順と注意事項を説明します。

ONL-3113aN-180Rd4-000-03-0404

セットアップを始める前に

セットアップの順序と参照するページを説明します。セットアップはハードウェアから始めます。

重要

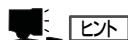
ビルド・トゥ・オーダーにてWindowsインストールを指定した場合は、本体にWindowsのプロダクトキーが記載されたIDラベルが貼りつけられています。Windowsのセットアップや再インストール時に必ず必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう注意してください。

もし剥がれたり汚れたりして見えなくなった場合はお買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。あらかじめプロダクトキーをメモし、他の添付品といっしょにメモを保管されることをお勧めします。

ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

1. ラックを設置する。(ラックに添付の説明書またはオンラインドキュメントを参照)
2. 別途購入したオプションを取り付ける。(→8章)

   ヒント

   Windows Server 2003をお使いの環境で、DIMMを増設した場合は「ページングファイルサイズ」を設定し直してください(本章、58ページを参照)。

3. 本装置をラックに取り付ける。(→2章)
4. ディスプレイ装置やマウス、キーボードなどの周辺装置を本装置に接続する。(→2章)
5. 添付の電源コードを本装置と電源コンセントに接続する。(→2章)
6. 本装置の構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

   5章、101ページに示す設定例を参考にしてください。

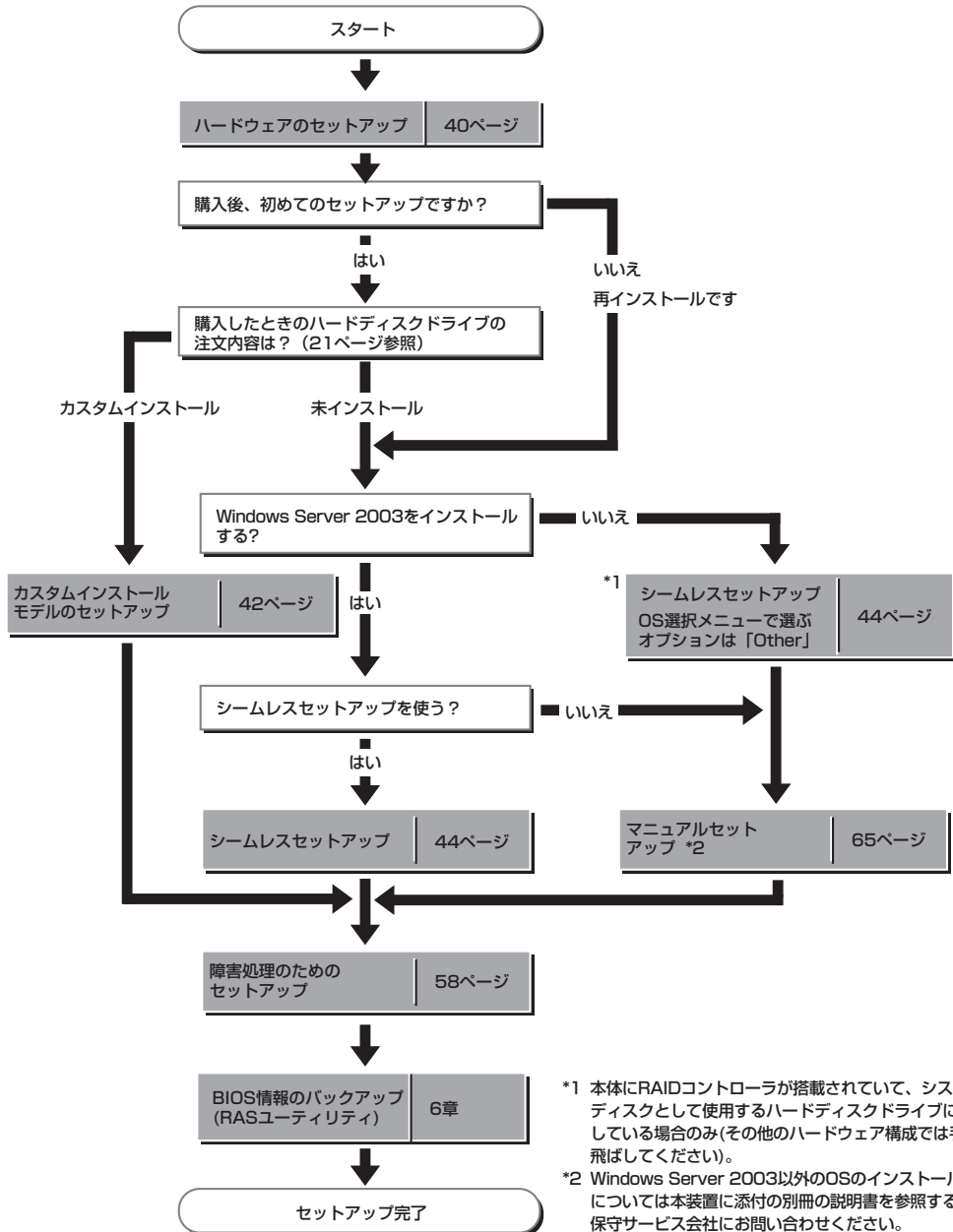
   重要

   使用するOSに合わせて正しく設定してください。BIOSのパラメータには、プラグ・アンド・プレイをサポートするかどうかなどの項目もあります。また、日付や時間が正しく設定されているか必ず確認してください。

システムのセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了したら、お使いになるオペレーティングシステムに合わせて後述の説明を参照してください。再インストールの際にも参照してください。

*1 本体にRAIDコントローラが搭載されていて、システムディスクとして使用するハードディスクドライブに接続している場合のみ(その他のハードウェア構成では手順を飛ばしてください)。

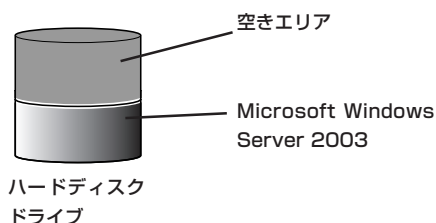
*2 Windows Server 2003以外のOSのインストール方法については本装置に添付の別冊の説明書を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。

カスタムインストールモデルのセットアップ

「ビルド・トゥ・オーダー」にて「カスタムインストール」を指定して購入された本装置のハードディスクドライブは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、本装置が提供するソフトウェアがすべてインストールされています。

ここで説明する手順は、「カスタムインストール」を指定して購入された本装置で初めて電源をONにするときのセットアップの方法について説明しています。再セットアップをする場合や、その他の出荷状態のセットアップをする場合は、「シームレスセットアップ」を参照してください。

セットアップをはじめる前に - 購入時の状態について -

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

本装置のハードウェア構成（ハードディスクドライブのパーティションサイズも含む）やハードディスクドライブにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダー（ビルド・トゥ・オーダー）によって異なります。
右図は、標準的な本装置のハードディスクドライブの構成について図解しています。

セットアップの手順

次の手順で本装置を起動して、セットアップをします。

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにし、そのままWindowsを起動する。

   [Windows Server 2003 セットアップ]画面が表示されます。

2. [次へ]をクリックする。

   [使用許諾契約]画面が表示されます。

3. [同意します]にチェックをして、[次へ]をクリックする。

   以降、使用者名やプロダクトキーなどの設定画面が次々と表示されます。

4. 画面の指示に従って必要な設定をする。

   セットアップの終了を知らせる画面が表示されます。

5. ［完了］をクリックする。

   本装置が再起動します。

6. 再起動後、システムにログオンする。

7. 53ページの手順12を参照して、ネットワークドライバの詳細設定をする。

8. 53ページの手順13を参照して、グラフィックスアクセラレータ用ドライバをインストールする。

9. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。

10. 58ページを参照して障害処理のためのセットアップをする。

11. 出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をする。
    インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

    - ESMPRO/ServerAgent
    - エクスプレス通報サービス*
    - Power Console Plus*

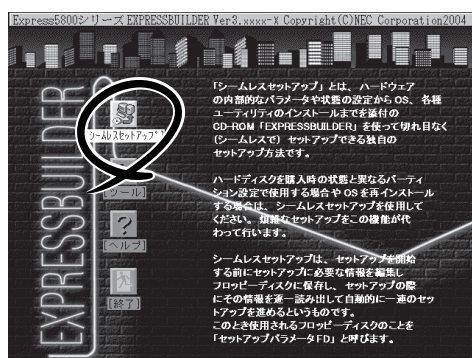
    上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。6章を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

12. 6章を参照して、EXPRESSBUILDERのRASユーティリティを使ってBIOS設定のバックアップをとる。

以上でカスタムインストールで購入された本装置での初めてのセットアップは終了です。再セットアップをする際は「シームレスセットアップ」を使ってください。

シームレスセットアップ

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使って本装置をセットアップします。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS(Windows Server 2003)、各種ユーティリティのインストールまでを添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMを使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。ハードディスクドライブを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集しフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。

- シームレスセットアップを使用しないインストール方法など、特殊なセットアップについては、この章の終わりに記載している「応用セットアップ」で説明しています。
- 本体にディスクアレイコントローラなどのRAIDボードやSCSIボード(「大容量記憶装置コントローラ」と呼ぶ)を搭載し、システムディスクとして使用するハードディスクドライブを接続している場合は64ページに記載している「応用セットアップ」も併せて参照してください。
- 「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。

  シームレスセットアップは、この情報を元にしてすべてのセットアップを自動で行います。この間は、本体のそばにいて設定の状況を確認する必要はありません。また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFDを使用すると、前回と同じ状態に本装置をセットアップすることができます。
- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクをご利用ください。
- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。

  事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておくと、シームレスセットアップの間に入力や選択しなければならない項目を省略することができます。(セットアップパラメータFDにあるセットアップ情報は、シームレスセットアップの途中で作成・修正することもできます)。本装置の他にWindows 95/98/Me、Windows NT 3.51以降、Windows XP/2000またはWindows Server 2003で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めします。

  ExpressPicnicを使ったセットアップパラメータFDの作成方法については、185ページで説明しています。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

本装置がサポートしているOSはMicrosoft® Windows® Server 2003 Enterprise Edition日本語版(以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ)です。
その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

BIOSの設定について

Windows Server 2003をインストールする前にハードウェアのBIOS設定などを確認してください。BIOSの設定には、Windows Server 2003から採用された新しい機能に関する設定項目があります。5章を参照して設定してください。

Windows Server 2003について

Windows Server 2003は、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について注意してください。

重要

- **インストールを始める前にオプションの増設や本体のセットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。**
- **弊社が提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。**
- **シームレスセットアップを完了した後に58ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。**

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

MO装置の接続について

Windows Server 2003をインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

ハードディスクドライブの接続について

OSをインストールしないハードディスクドライブは、OSをインストール後に接続してください。また論理ドライブを複数作成している場合は、「論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順」(66ページ)を参照してください。

ディスクアレイコントローラボードが搭載されている場合について

LANコンソールリダイレクション機能は、シームレスセットアップを行う前に必ず無効にしてください。使用したい場合は、シームレスセットアップ終了後に有効にしてください。

ライトモードの設定について

セットアップ中は、RAIDコントローラのライトモードは、必ず「WriteThru」に設定してください。詳細な設定については、各種RAIDコントローラのユーザーズガイドを参照してください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ

インストールに必要なサイズ	= 2900MB
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 12MB

重要

- **上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。**
- **1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズx 1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。**
- **その他アプリケーション等をインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするパーティションサイズを追加してください。**

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、前述の計算方法から

2900MB + (512MB × 1.5) + (512MB + 12MB) = 4192MB

となります。

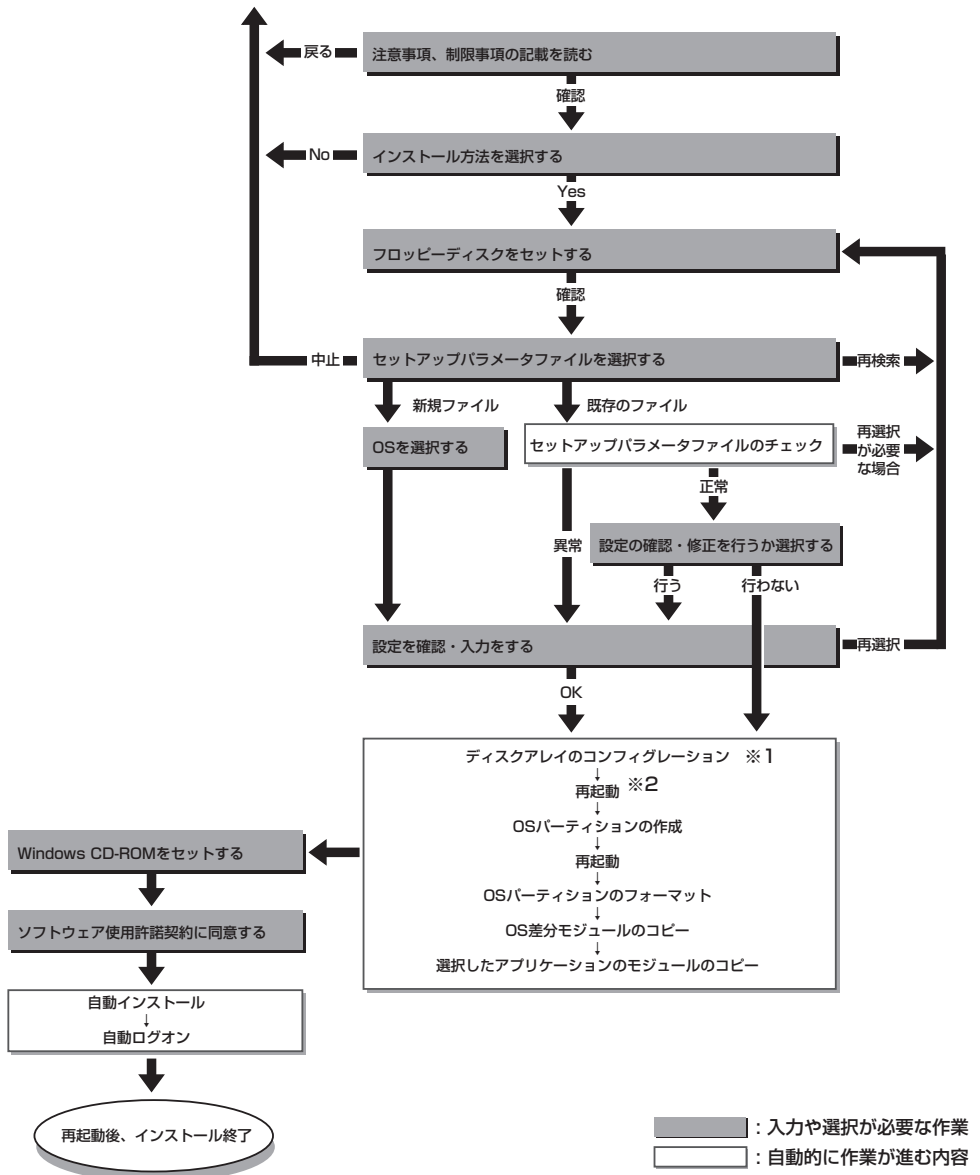
シームレスセットアップでインストールする場合、必要最小限のパーティションサイズを「上記の必要最小限のパーティションサイズ+ 850MB」または「4095MB」のうち、どちらか大きい値に設定してください。

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブへの再インストールについて

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。
既存のパーティションを残したい場合は、EXPRESSBUILDER CD-ROMに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照して再インストールしてください。

インストレーションサプリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関する注意事項が記載されています。

セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。

※1　ディスクアレイコントローラが搭載されていて、セットアップパラメータFDの作成時に「RAID新規作成」にチェックをした場合のみ。
※2　OSの選択で［その他］を選択したときはここで終了する。

セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。
セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータFDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MBフォーマット済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピーディスクを1枚用意してください。

重要

- **システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。**
- **Windows Server 2003の起動後にネットワークアダプタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。**
- **BIOSのHyper-Threading Technology機能の設定が[Enabled]だとインストールに失敗する場合があります。インストールを行う前にBIOS Configuration/Setupユーティリティを起動し、「Advanced Setup」－「CPU Options」の順でメニューを選択し、「Hyper-Threading Technology」の設定を[Disabled]に設定してください。**

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。

   ヒント

   - OSをインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。
   - OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。
   - 論理ドライブを複数作成している場合は、「論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順」(66ページ)を参照してください。

2. 本装置のDVD-ROMドライブにEXPRESSBUILDER CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONして本装置を再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. [シームレスセットアップ]をクリックする。

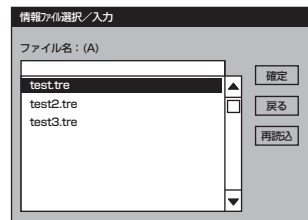
5. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックする。

- 「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBのフォーマット済みフロッピーディスク(ブランクディスク)をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックしてください。
- セットした「セットアップパラメータFD」は指示があるまで取り出さないでください。

[設定済みのセットアップパラメータFDをセットした場合]

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

① インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。

選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような問題がある場合(たとえばExpressPicnic Ver.4以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど)、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクを確認してください。

セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

② 確認する場合は [確認]を、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[ｽｷｯﾌﾟ]をクリックする。

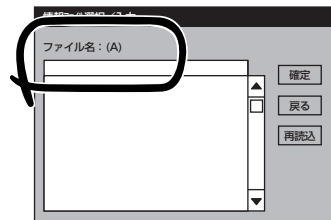
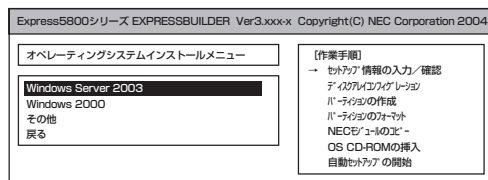
[確認]をクリック→手順6へ進む
[ｽｷｯﾌﾟ]をクリック→手順7へ進む

[ブランクディスクをセットした場合]

① [ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分をクリックするか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

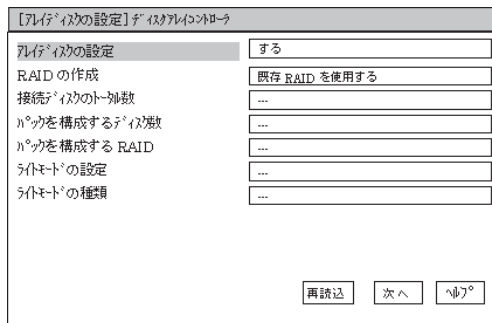
② ファイル名を入力する。

[オペレーティングシステムインストールメニュー]が表示されます。リストには、装置がサポートしているOSが表示されます。

③ リストボックスからインストールする[Windows Server 2003]を選択する。

6. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

本体にRAIDコントローラが搭載されている場合は、[アレイディスクの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。

[アレイディスクの設定]ディスクアレイコントローラ

項目	設定値
アレイディスクの設定	する
RAIDの作成	既存 RAID を使用する
接続ディスクのトータル数	---
パックを構成するディスク数	---
パックを構成する RAID	---
ライトモードの設定	---
ライトモードの種類	---

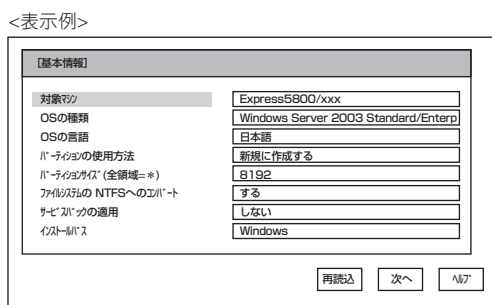
再読込　次へ　ヘルプ

次に、[基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから［次へ]をクリックしてください（画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。）

以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ﾍﾙﾌﾟ]をクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

<表示例>

[基本情報]

項目	設定値
対象マシン	Express5800/xxx
OSの種類	Windows Server 2003 Standard/Enterp
OSの言語	日本語
パーティションの使用方法	新規に作成する
パーティションサイズ（全領域=＊）	8192
ファイルシステムの NTFSへのコンバート	する
サービスパックの適用	しない
インストールパス	Windows

再読込　次へ　ヘルプ

重要

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます(下図参照)。

第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション	
削除	保持	保持	●●●●●

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(46ページ参照)。「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。
- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設定値は実領域以上あるいは120GB以上の値を指定しないでください。
- 「パーティション」に4095MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外(保守領域を除く)にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows Server 2003をインストールします。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 実領域が120GB以上になる場合は、パーティションサイズに「全領域」を指定しないでください。
- ここでは日本語の入力はできません。使用者名と会社名を日本語で入力したい場合は、ログオン後に入力画面がポップアップされますので、その時に再入力してください。ここでは、仮の名前を入力してください。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。

ヒント

- ［基本情報］画面にある［再読込］をクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。［再読込］は、［基本情報］画面にのみあります。
- ［コンピュータの役割］画面にある［終了］をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

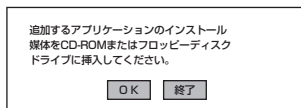
設定を完了すると自動的に再起動します。

7. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。

8. 追加するアプリケーションをインストールする。

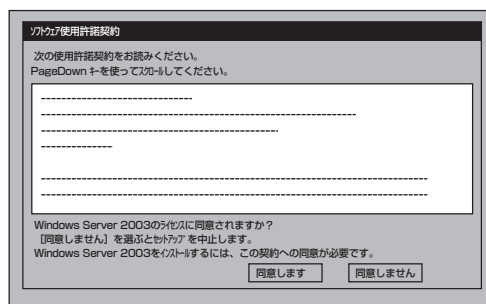
追加するアプリケーションのインストール媒体をCD-ROMまたはフロッピーディスクドライブに挿入してください。
ＯＫ　終了

シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。

9. メッセージに従ってEXPRESSBUILDER CD-ROMとセットアップパラメータFDをDVD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブから取り出し、Windows Server 2003 CD-ROMをDVD-ROMドライブにセットする。

［ｿﾌﾄｳｪｱ使用許諾契約］画面が表示されます。

10. よく読んでから、同意する場合は、［同意します］をクリックするか、<F8>キーを押す。同意しない場合は、［同意しません］をクリックするか、<F3>キーを押す。

重要

同意しないと、セットアップは終了し、Windows Server 2003はインストールされません。

11. Broadcom Advanced Control Suiteをインストールする。

Broadcom Advanced Control Suiteは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。
Broadcom Advanced Control Suiteを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、本装置に耐障害性に優れた環境を提供し、本装置とスイッチ間のスループットを向上 させることができます。
このような機能を利用する場合は、Broadcom Advanced Control Suiteが必要になります。
Broadcom Advanced Control Suiteをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

重要

「PROSet」がインストールされている場合、55ページの「オプションのネットワークボードのドライバ」の「PROSetのアンインストール」を参考にし、「PROSet」を削除してから「Broadcom Advanced Control Suite」をインストールしてください。その際、「PROSet」にてネットワークアダプタをチームに設定している場合、すべてのチームを削除してから「PROSet」を削除してください。「PROSet」と「Broadcom Advanced Control Suite」の混在運用は、未サポートになります。必ずどちらか一方をインストールしてください。

① EXPRESSBUILDER CD-ROMをDVD-ROMドライブにセットする。

② エクスプローラを起動する。

<標準のスタートメニューモードの手順>

スタートメニューから[エクスプローラ]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

スタートメニューから[すべてのプログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

③ 「<DVD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥DOTNET¥B57¥BACS」ディレクトリ内の「Setup.exe」アイコンをダブルクリックする。

[Broadcom Management Programs Setup]が起動します。

④ [Next]をクリックする。

⑤ [Yes]をクリックする。

[Select Features]画面が表示されます

⑥ [Control Suite]と[BASP]のチェックボックスにチェックを入れ、[Next]をクリックする。

インストールが開始され、[Information]ダイアログボックスが表示されます。

⑦ [OK]をクリックする。

⑧ システムを再起動する。

以上で完了です。

[Broadcom Advanced Control Suite の削除手順]

① [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスを表示する。

<標準のスタートメニューモードの手順>

スタートメニューから[コントロールパネル]→[プログラムの追加と削除]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

(1) スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。
(2) [プログラムの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。

② [Broadcom Management Programs]を選択し、[変更と削除]をクリックする。

「InstallShield Wizard」ダイアログボックスが表示されます。

③ [Remove]ラジオボタンを選択し、[Next]をクリックする。

「Confirm Uninstal」ダイアログボックスが表示されます。

④ [OK]をクリックする。

「Question」ダイアログボックスが表示されます。

⑤ [はい]をクリックする。

[Information]ダイアログボックスが表示されます。

⑥ [OK]をクリックする。

⑦ 「コントロールパネル」ウィンドウを終了し、システムを再起動する。

以上で完了です。

12. ネットワークドライバの詳細設定をする。

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です。

① 「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

<標準のスタートメニューモードの手順>

（1） スタートメニューから[コントロール パネル]→[ネットワーク接続] →[ローカルエリア接続](Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet)をクリックする。

[ローカル エリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

（2） [プロパティ]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

（1） スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。

（2） [ローカル接続]アイコン(Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet)を右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]をクリックする。

② [構成]をクリックする。

ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。

③ [詳細設定]タブをクリックし、[Speed & Duplex]をハブの設定値と同じ値に設定する。

④ ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]をクリックする。

⑤ 同様の手順でもう一方のネットワークアダプタ(Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2)の転送速度とDuplexモードを設定する。

以上で完了です。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

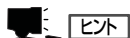
13. グラフィックアクセラレータ用ドライバをインストールする。

① スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

② 「<DVD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥VIDEO¥RADEON7000¥W2K3」ディレクトリ内の[Setup.exe]アイコンをダブルクリックする。

③ メッセージに従って、Install作業を進める。

ドライバのインストールが開始されます。

ヒント

途中、「デジタル署名が見つかりませんでした。」とのメッセージが表示される場合は、「はい」をクリックしてインストールを続けてください。

④ 指示に従ってOSを再起動する。

14. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。

15. 58ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。

16. EXPRESSBUILDERのRASユーティリティを使ってBIOS設定のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

ネットワークアダプタの二重化のセットアップ

複数のアダプタでグループを作ることにより、使用されているアダプタに障害が発生した場合、自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させることができます。

二重化の設定

ネットワークアダプタの二重化を設定する場合は、以下の手順に従ってセットアップしてください。

1. [Broadcom Advanced Control Suite]ダイアログボックスを表示する。

<標準のスタートメニューモードの手順>

スタートメニューから[コントロールパネル]→[Broadcom Control Suite]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

① スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。

② [Broadcom Control Suite]アイコンをダブルクリックする。

2. [負荷バランス/仮想LAN]タブを選択し、[チームを作成]をクリックする。

「新しいチームを追加」ダイアログボックスが表示されます。

3. [Name]の欄に任意のチーム名を入力し、[Team Type]で「Smart Load Balance and Fail Over」が選択されていることを確認し、[OK]をクリックする。

4. [Available Adapters]欄内の「Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet」を[Load Blance Members]に追加する。

5. 同様に「Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2」を[Load Blance Members]に追加する。

重要

「Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet」以外のアダプタはチームに追加しないでください。

6. [Broadcom Advanced Control Suite]ダイアログボックスの[適用]をクリックする。

   確認のダイアログボックスが表示されます。

7. [はい]をクリックする。

8. [Broadcom Advanced Control Suite]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

   以上で完了です。

二重化の削除手順

1. [Broadcom Advanced Control Suite]ダイアログボックスを表示する。

   <標準のスタートメニューモードの手順>

   スタートメニューから[コントロールパネル]→[Broadcom Control Suite]をクリックする。

   <クラシックスタートメニューモードの手順>

   ① スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。

   ② [Broadcom Control Suite]アイコンをダブルクリックする。

2. [負荷バランス/仮想LAN]タブを選択し、[チームを削除]をクリックする。

3. [Broadcom Advanced Control Suite]ダイアログボックスの[適用]をクリックする。

   確認のダイアログボックスが表示されます。

4. [はい]をクリックする。

5. [Broadcom Advanced Control Suite]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

   以上で完了です。

オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-86/111/84/103/113)を使用する場合は、EXPRESSBUILDER CD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください

N8104-86/111の場合

「<DVD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥DOTNET¥BC11¥PRO100¥WS03XP32」

N8104-84/103/113の場合

「<DVD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥DOTNET¥BC11¥PRO1000¥WS03XP32」

インストール手順が不明な場合は、インストレーションサプリメントガイドのネットワークドライバのインストール手順を参照してください。PROSetがインストールされている場合、N8104-103を使用する際に、PROSetの[詳細設定]タブより、「TCP セグメンテーションのオフロード」の値を「オフ」にしてご使用ください。

PROSetのインストール/アンインストール

「Broadcom Advanced Control Suite」がインストールされている場合、51ページの手順11「Broadcom Advanced Control Suiteをインストールする」の「Broadcom Advanced Control Suite の削除手順」を参考にし、「Broadcom Advanced Control Suite」を削除してから「PROSet」をインストールしてください。
その際、「Broadcom Advanced Control Suite」にてネットワークアダプタをチームに設定している場合、55ページの「ネットワークアダプタの二重化のセットアップ」の「二重化の削除手順」を参考にし、すべてのチームを削除してから「Broadcom Advanced Control Suite」を削除してください。
「PROSet」と「Broadcom Advanced Control Suite」の混在運用は、未サポートになります。必ずどちらか一方をインストールして使用してください。

PROSetのインストール

PROSetは以下の手順に従ってインストールしてください。

1. EXPRESSBUILDER CD-ROMをDVD-ROMドライブにセットする。
2. エクスプローラを起動する。

   <標準のスタートメニューモードの手順>

   スタートメニューから[エクスプローラ]をクリックする。

   <クラシックスタートメニューモードの手順>

   スタートメニューから[すべてのプログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
3. 「<DVD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥DOTNET¥BC11¥PROSet¥WS03XP32」ディレクトリ内の「PROSet.exe」アイコンをダブルクリックする。

   [Intel(R) PROSet - Installshield ウィザード]が起動します。
4. [次へ]をクリックする。
5. [使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。
6. [標準]を選択し、[次へ]をクリックする。
7. [インストール]をクリックする。

   [InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。
8. [完了]をクリックする。
9. システムを再起動する。

   以上で完了です。

PROSetのアンインストール

1. [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスを表示する。

   <標準のスタートメニューモードの手順>

   スタートメニューから[コントロールパネル]→[プログラムの追加と削除]をクリックする。

   <クラシックスタートメニューモードの手順>

   ① スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。

   ② [プログラムの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。

3. [Intel(R) PROSet]を選択し、[削除]をクリックする。

   確認のダイアログボックスが表示されます。

4. [はい]をクリックする。

5. 「コントロールパネル」ウィンドウを終了し、システムを再起動する。

   以上で完了です。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

本装置内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

重要

メモリダンプの注意

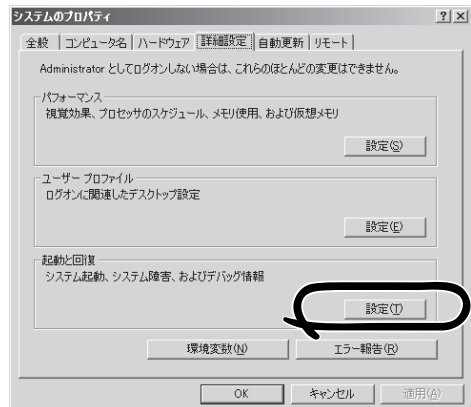
- **メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。**
- **ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。**
- **ESMPRO/ServerAgentがインストールされている場合、OSのストール監視時間が4分15秒に設定されています。メモリダンプがこの時間で終わらない場合には以下の手順でOSのストール監視を抑止してください。**

  [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の中のESMPRO ServerAgentを起動し、[WDT]タブの「ストール監視機能を使用する」のチェックを外す。

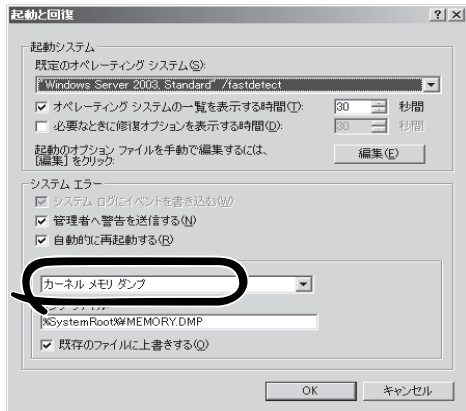
次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。

   [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

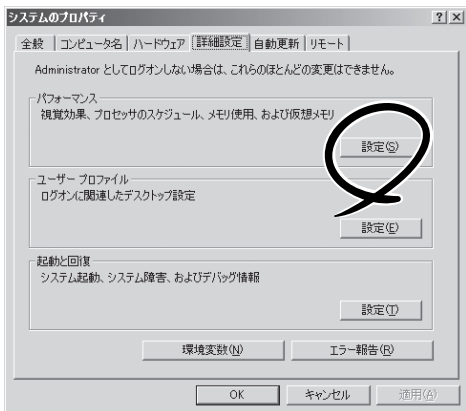
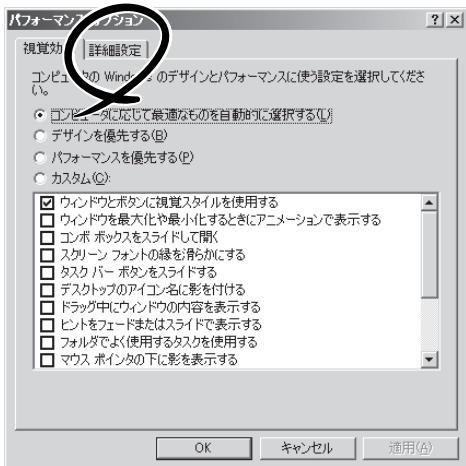
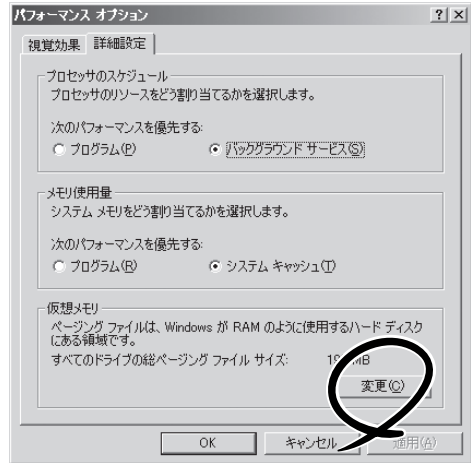
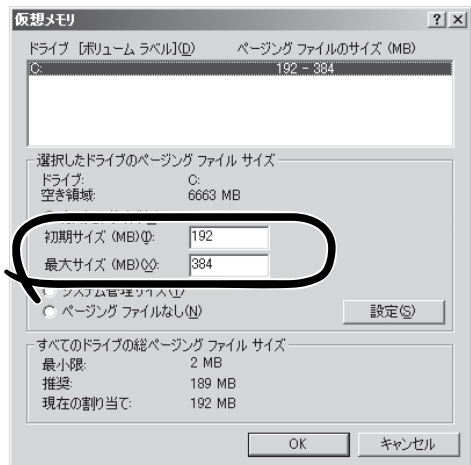
2. [詳細設定]タブをクリックする。
3. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。

4. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

   <Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

   D:¥MEMORY.DMP

重要

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

5. [パフォーマンスボックス]の[設定]をクリックする。

   [パフォーマンスウィンドウ]が表示されます。

6. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。

7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。

8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]をクリックする。

重要

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。ページングファイルの[初期サイズ]を「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(46ページ)」を参照してください。
- 障害発生時に備えて、事前にDUMPスイッチを押し、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。

9. [OK]をクリックする。

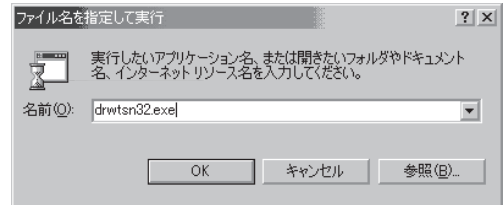
設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

Windowsワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出すると本装置を診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

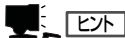
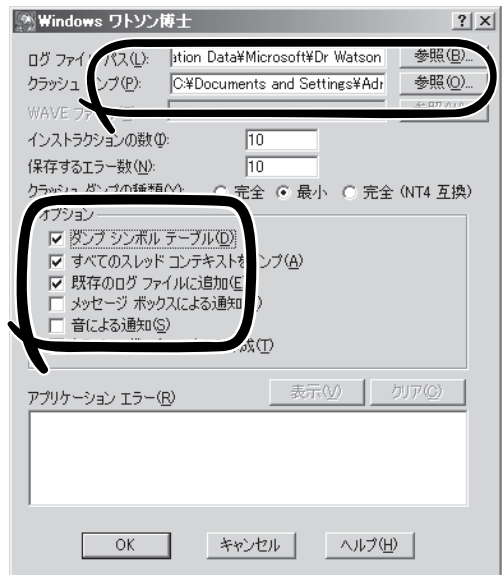
1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。

   [Windowsワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。

3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

   「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

   □ ダンプシンボルテーブル
   □ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
   □ 既存のログファイルに追加
   □ クラッシュダンプファイルの作成

   それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [プログラムの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。

   [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスが表示されます。

3. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。

   [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

4. コンポーネントの[管理とモニタ ツール]チェックボックスをオンにして[次へ]をクリックする。

5. ディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、Windows Server 2003 CD-ROMをDVD-ROMドライブにセットして[OK]をクリックする。

6. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]をクリックする。

7. [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスの[閉じる]をクリックする。

8. [コントロールパネル]ダイアログボックスを閉じる。

ネットワークモニタは、スタートメニューから[プログラム]→[管理ツール] をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。
操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

管理ユーティリティのインストール

管理ユーティリティには、添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMにバンドルされているソフトウェアとビルド・トゥ・オーダーで添付されるオプションソフトウェアがあります。

添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMには、本装置監視用の「ESMPRO/ServerAgent」および管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。ESMPRO/ServerAgentは、シームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。[スタート]メニューの[プログラム]やコントロールパネルにインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。シームレスセットアップの設定でインストールしなかった場合は、6章の「EXPRESSBUILDER」を参照して個別にインストールしてください。

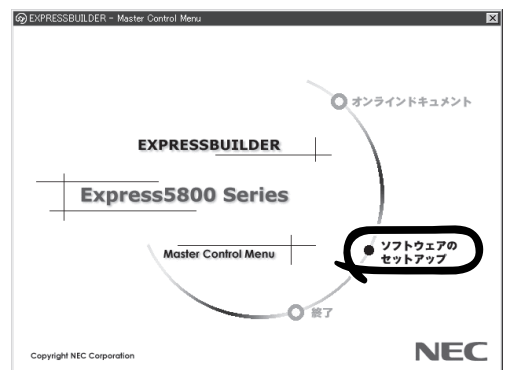
ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは6章の「EXPRESSBUILDER」を参照してください。

システムのアップデート

システムのアップデートは次のような場合に行います。

- システム構成を変更した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合
  （サービスパック関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのFDを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときサービスパックを再適用する必要はありません。）
- 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合
- プロセッサ（CPU）を増設した場合

管理者権限のあるアカウント（Administratorなど）で、システムにログインした後、EXPRESSBUILDER CD-ROMを本装置のDVD-ROMドライブにセットしてください。

表示された画面「マスターコントロールメニュー」の[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックし、メニューから[システムのアップデート]をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

応用セットアップ

システムの環境やインストールしようとするオペレーティングシステムによっては、特殊な手順でセットアップしなければならない場合があります。

シームレスセットアップ未対応の大容量記憶装置コントローラを利用する場合

最新のディスクアレイコントローラなど、本装置に添付のEXPRESSBUILDERに対応していない大容量記憶装置コントローラが接続されたシステムにおいて、OSの再インストールなどをする場合は、次の手順でセットアップしてください。

- ビルド・トゥ・オーダーにより、OS組み込み出荷された状態からセットアップを開始する場合には、本操作を行う必要はありません。
- シームレスセットアップに対応しているボードの一覧については、次のホームページから参照できます(「ExpressPicnic」をクリックしてください)。

  http://www.ace.comp.nec.co.jp/

1. セットアップしようとする大容量記憶装置コントローラの説明書を準備する。

   チェック

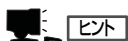
   本書の内容と大容量記憶装置コントローラの説明書との内容が異なる場合は、大容量記憶装置コントローラの説明書を優先してください。

2. ディスクアレイコントローラの場合は、コントローラの説明書に従ってRAIDの設定を行う。

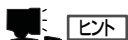
   RAID設定の不要な大容量記憶装置コントローラの場合は、手順3へ進んでください。

3. EXPRESSBUILDER CD-ROMからシステムを起動させる。

4. シームレスセットアップを実行し、次のような内容に設定されていることを確認する。
   - アレイディスクの設定画面が表示された場合は、[既存のRAIDを使う]をチェックする

     ヒント

     コントローラによっては、設定画面が現れないことがあります。

   - [大容量記憶装置用OEM-FDの適用をする]をチェックする

     ヒント

     このオプションをチェックすることで、フロッピーディスクで提供されているドライバを読み込ませて、シームレスセットアップを進めることができます。

5. シームレスセットアップの途中で[大容量記憶装置用ドライバ]をコピーする。

   大容量記憶装置コントローラに添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。

   「大容量記憶装置用OEM-FD」をフロッピーディスクドライブに挿入してください。

   OK　終了

マニュアルセットアップ

本装置へのオペレーティングシステムのインストールは、シームレスセットアップを使用することをお勧めしていますが、特殊なインストールに対応する場合、マニュアルセットアップが必要になることがあります。
シームレスセットアップを使わずにWindows Server 2003をインストールする方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから、「サポートディスク」を作成しておいてください。

オプションボードを接続する場合は、オプションボードに添付の説明書も併せて参照してください。

サポートディスクとは？

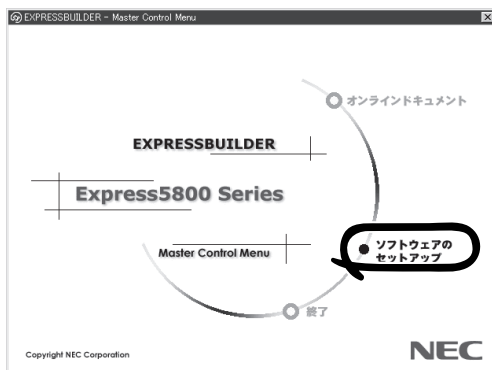
シームレスセットアップを使わずに再セットアップするときの手順「マニュアルセットアップ」では、「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるサポートディスクが必要です。
「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」には、Windows Server 2003のインストールで必要となるRAIDコントローラやSCSIコントローラのドライバなどが含まれています。マニュアルセットアップを始める前に「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を用意してください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。
2. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。
3. 本装置のDVD-ROMドライブに添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMをセットする。
4. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONして本装置を再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。
5. [ツールメニュー]から[サポートディスクの作成]を選択する。
6. [サポートディスク作成メニュー]から[Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER]を選択する。
7. 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。

   「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。

   作成した「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

本装置の他にWindows(Windows 95以降、Windows NT 4.0以降)が動作するコンピュータをお持ちの場合は、Windows上でEXPRESSBUILDER CD-ROMをセットすると起動する「マスターコントロールメニュー」から「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成することもできます。

論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順

再セットアップをはじめる前に、万一の場合に備えて必ずデータのバックアップを行ってください。

再セットアップ手順

1. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従って、マニュアルセットアップを開始する。

2. 次のメッセージが表示されたら、OSをセットアップしたいパーティションを選択する。

   次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。

   上下の方向キーを使って、一覧からパーティションを選択してください。

   重要

   システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字はセットアップ完了後は修正できません。この画面で正しいドライブ文字が割り当てられていることを確認してからセットアップを続行してください。

3. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを続行する。

   以上で完了です。

   ヒント

   セットアップ完了後、再セットアップ前とドライブ文字が異なる場合があります。
   ドライブ文字の修正が必要な場合は次項の「ドライブ文字の修正手順」に従ってドライブ文字を変更してください。

ドライブ文字の修正手順

以下の手順では、システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字は変更できません。ご注意ください。

1. [スタートメニュー]から[マイコンピュータ]を右クリックし、[管理]を選択して[コンピュータの管理]を起動する。

2. 左側のウィンドウの中から、[ディスクの管理]を選択する。

3. ドライブレターを変更したいボリュームを選択して右クリックし、[ドライブ文字とパスの変更]を選択する。

   [変更]をクリックしてください。

4. [次のドライブ文字を割り当てる]をクリックし、割り当てたいドライブレターを選択する。

5. [OK]をクリックする。

6. 以下の確認メッセージが表示されたら、［はい］をクリックする。

ボリュームのドライブ文字を変更すると、プログラムが動作しないことがあります。このドライブ文字を変更しますか？

7. ［コンピュータの管理］を終了する。

以上で完了です。